

頑張る

# 農業法人

綾部市、府、JA全農京都、民間企業、農家が  
出資し、担い手育成や京  
野菜の産地拡大を目指す  
第三セクター方式の農業  
生産法人「株式会社・農  
夢(のうむ)」。

ビニールハウス46棟  
で、ブランド産品「みず

菜」を周年栽培し、昨年  
103トを超える出荷量  
と販売額5800万円を  
達成。同社は府立農業大  
学校卒業生らを正社員と  
して雇用するなど、地域  
を挙げた担い手育成にも  
取り組んでいる。

農家の高齢化や後継者  
不足が進む中、当時の綾  
部市長が「本市の農業が  
危機を迎えている」とし  
て、府やJAグループな  
どと協議し、2007年  
11月に同社を設立した。  
市内農家出身で、神戸

市に本社がある電子部品  
会社の役員も務めた塩見  
彰さん(69)に社長就任  
を要請。「農業法人とし  
ての青写真を描くのは難  
しかったが、市長の熱意  
で決めた」と当時の決意  
を語る。

役員5人体制。農業大  
学校卒業生で就農を目指  
す2人を雇用、地元農家  
女性らのパートタイマー  
でスタートした。

設立翌年に同市館町に  
農地1・4畝を借りて27  
棟のハウスを建て、「み  
ず菜」の栽培を開始。年  
間53トをJA京都にのく  
にを通して市場に出荷  
し、売上額は約2900  
万円となった。

さらに売り上げを伸ば  
そうと09年に、隣接の豊  
里町に第2農場として、  
借農地75坪にハウス19棟

綾部市

## (株)農夢

### 地域の担い手育成にも力点

収穫作業を見守る塩見社長(右)と総務担当の四方勝一さん



### 「みず菜」を周年栽培

を増設。周年8作体制を  
築き、昨年の目標を達成  
した。塩見社長は「農業は工  
業と違い、自然環境に大  
きく左右される。厳しい

条件でも成果を出すこと  
が大事」「品質で評価を  
落としたり回復は難し  
い」と、ブランド基準を  
ベースにした出荷調整に  
こだわる。従業員らは袋  
詰め段階で、出荷数量の  
他、土が付いていないか  
など細かくチェックす  
る。むらのない高品質で  
市場の評価も高い。

法人設立4年で経営も  
黒字に転じたことから、  
第一段階の目標は越え  
た。次の段階として、有  
機質の土づくりやきめ細  
かな水管理、収穫方法の  
改良などで、より一層高  
品質と生産量の拡大を図  
る他、販路拡大や露地で  
の京野菜栽培で成長を目  
指す。塩見社長は「これ  
までは足固め。規模拡大  
に向け試行錯誤しながら、  
いろいろなチャレンジ  
していきたい」と意欲を  
高めている。

▽法人の所在地 綾部市  
位田町松前81▽電話 0  
773(47)9610